

中 学 校

平成23年度

# 教育研究員研究報告書

外 国 語

東京都教育委員会

## 目次

I	主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の方法	2
IV	第一分科会の研究	
1	主題設定の理由	3
2	研究の視点	3
3	研究仮説	3
4	研究の方法	4
5	研究の内容	5
6	検証授業	7
7	事後アンケートのまとめと分析	10
8	研究の成果と課題	13
V	第二分科会の研究	
1	主題設定の理由	14
2	研究の視点	14
3	研究仮説	14
4	研究の方法	15
5	研究の内容	17
6	検証授業	19
7	研究の考察と事後アンケートのまとめ	22
8	研究の成果と課題	23
VI	研究の成果と今後の課題	24

## 研究主題

# 4 技能を総合的に育成することで発信力を高める指導の工夫

## I 主題設定の理由

現行の学習指導要領では第1目標において、「聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」となっている。そして、平成24年度から全面実施される新しい学習指導要領では、「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」となった。さらに、平成23年度より小学校高学年で外国語活動が始まった。小学校外国語活動の学習指導要領では、特に聞くこと、話すことに重点が置かれ、「コミュニケーション能力の素地を養う」ことが目標となっている。その「素地」の上に、中学校では、読むこと、書くことも含めた4技能を総合的に育成することが、「コミュニケーション能力の基礎を養う」ことにつながるものであると考える。

また、新しい学習指導要領では、「つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること」、「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと」、そして「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」などが新たに示された。そして、新しい学習指導要領解説第1章総説2外国語科改訂の趣旨には、「自らの考えなどを相手に伝えるための『発信力』やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、『聞くこと』や『読むこと』を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、『話すこと』や『書くこと』を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。」と書かれている。

しかし一方で、授業での生徒の活動からは、次の二つの現状が見られる。一つは、質問に対する回答が一語又は一文で終わってしまい、会話が発展しないこと。もう一つは、つながりのある文を言えない、書けないことである。本研究部会にはこれには具体的な課題が二点あると考えた。一つは、文法的に正しい英語表現ができていないこと。もう一つは、文単位の英語表現はできているものの、文と文のつながりを意識した表現ができていないことである。コミュニケーションの場面の中で、「発信」することが一言二言、一問一答で終わることはあまりない。相互理解のできるコミュニケーションを成立させるには、つながりのある文を言えたり、書けたりすることがとても重要かつ不可欠である。

本研究部会では上記の問題を解決するためには、文と文のつながりを意識させ、コミュニケーションを継続させる方法を学ばせることが問題解決の一つの糸口になると考えた。

そして、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4技能を総合的に育成することが、自分の考えや気持ちなどを伝えるといった発信力に最終的につながると考え、研究主題として「4技能を総合的に育成することで発信力を高める指導の工夫」を設定した。

## II 研究の視点

本研究部会では、聞くこと、読むことを通して、生徒がインプットした内容を、話すこと、書くことといったアウトプットにつなげる活動、そして考えや気持ちを発信する際に、語と語や文と文のつながりを意識して行うための活動を開発し、日常の授業を通して検証を進めた。

### Ⅲ 研究の方法

#### 1 基礎研究

学習指導要領に示された目標や内容に照らし、各学校の授業で行われている言語活動等を整理・分析し、研究の方向性を探った。

#### 2 調査研究

教育研究員の所属校において、実技調査と質問紙による生徒への意識調査を実施し、英語を使用しての自己表現に関するコミュニケーションへの意識等について把握した。

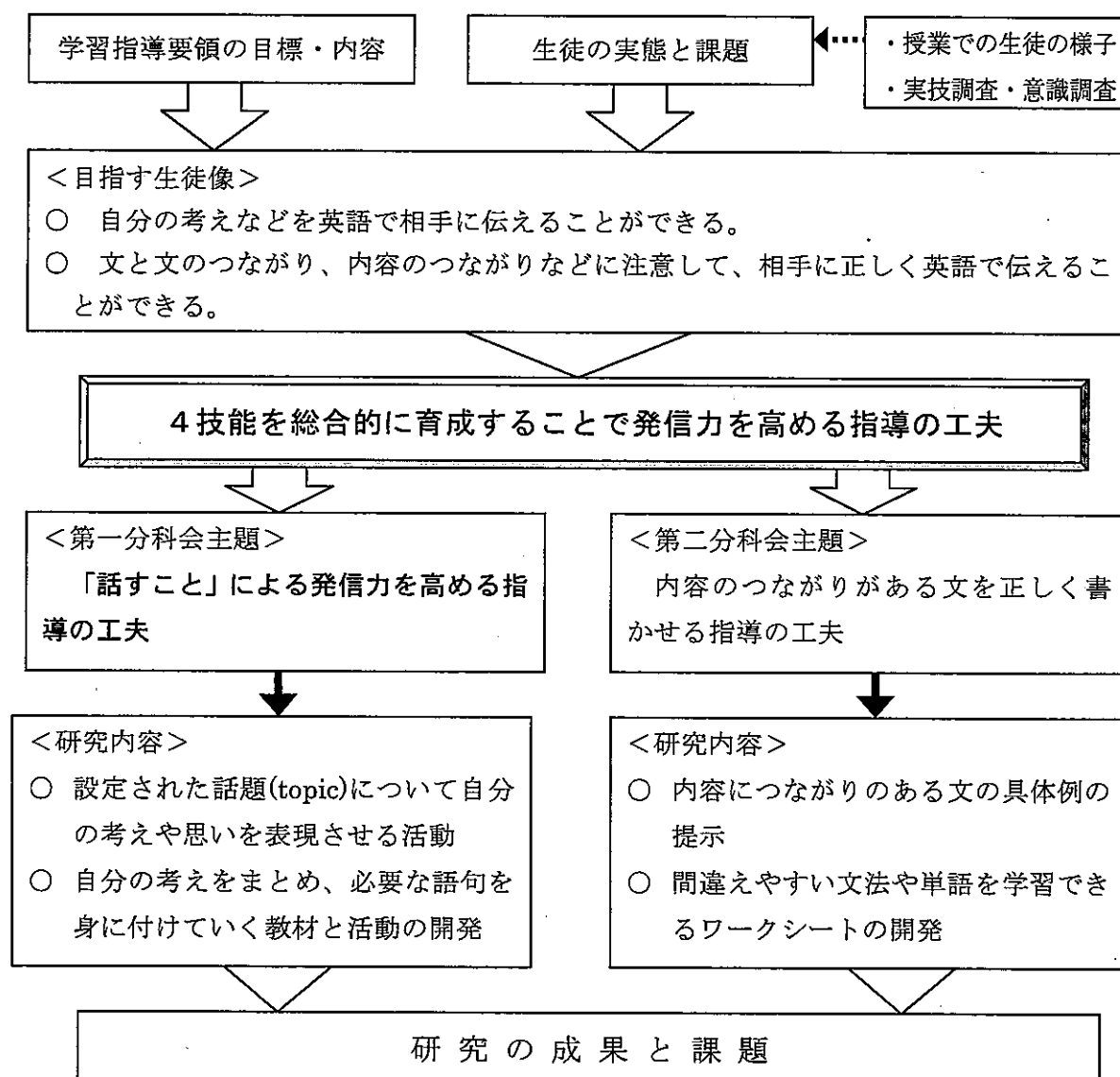
#### 3 授業の実践

研究員所属校において実施した。

#### 4 研究成果のまとめ

検証授業や授業実践、事後アンケート等を基に成果をまとめ開発した活動の改善を行う。

#### 5 研究構想図



#### IV 第一分科会の研究

##### 研究主題

「話すこと」による発信力を高める指導の工夫」

##### 1 主題設定の理由

第一分科会では、主に「話すこと」、「書くこと」といった発信力の中で、以下の3点の理由から「話すこと」を高めることに主眼を置いた。

- (1) 小学校外国語活動での音声面によるコミュニケーションの素地を活用する必要がある。
- (2) 「英語を話したいが、話す内容やその英語表現が思いつかない。」生徒の現状を改善する必要がある。
- (3) 「つながりのある話を続けることがうまくできない。」生徒の現状を改善する必要がある。

新しい学習指導要領の小学校外国語活動の目標は、「外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」とあり、「話すこと」、「聞くこと」といった音声面に重点が置かれている。小学校第5、6学年の2年間で計70時間、英語の音声に親しみ、音声面によるコミュニケーションの素地が身に付けることを目的としている。中学校1年生では、その素地を活用して、「話すこと」による発信力の充実を段階的に図ることが重要である。

しかし、中学校1年生の授業では、外国語活動の実施に向けて先行的に小学校で行われている英語の活動により生徒は積極的に英語を話そうとする態度が見られる一方で、いくつかの課題が見られる。授業の中で英語による自己紹介を行ったところ、好きなことについては話すことができるものの、「I like baseball. I like sushi. I go to school every day.」などのように文と文の間に内容のつながりのない自己表現が多かった。新しい中学校学習指導要領では、「話すこと」については「つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること」とある。そこで、第一分科会では研究主題を『話すこと』による発信力を高める指導の工夫」とし、言語活動の工夫に取り組むこととした。

##### 2 研究の視点

第1分科会では、下記の仮説に基づき、以下のような視点で研究していくこととした。

- (1) 通常の授業の中で、それぞれの生徒が自己表現に必要な英語の語句や表現を増やしていく指導をすること
- (2) 話す内容（題材）を多く提供していくこと
- (3) 一つのテーマについてなるべく多く話すことを意識付けること

##### 3 研究仮説

設定された話題について自分の考えや思いを「話すこと」により表現する活動を繰り返すことで、生徒の発信力が高まる。

#### 4 研究の方法

「話すこと」の実態を調べるために、部員所属校3校の中学1年生対象に実技調査として「自己紹介テスト」を行った。

- (1) 対象 中学校1年生 475名(3校)
- (2) 実施時期 平成23年6月1日～20日  
\*一般動詞の指導を終えた時期(実施1週間前に予告)
- (3) 実施方法

ア 下記の規定の4文を事前に提示する。

- I am (名前).
- I am from (出身地).
- I am (年齢) years old.
- I like (好きなこと).

- イ 教師との面接形式で、一人ずつ30秒以内で行う。
- ウ 30秒以内であれば、自由に英文を付け加えてよい。

#### (4) 調査項目

- ア 規定の英文以外に文を付け加えた人の割合
- イ 話した英文の平均数 (Hello. や Thank you. などは省く。)
- ウ つながりのある文を話した生徒の割合
- エ つながりのある文の平均数

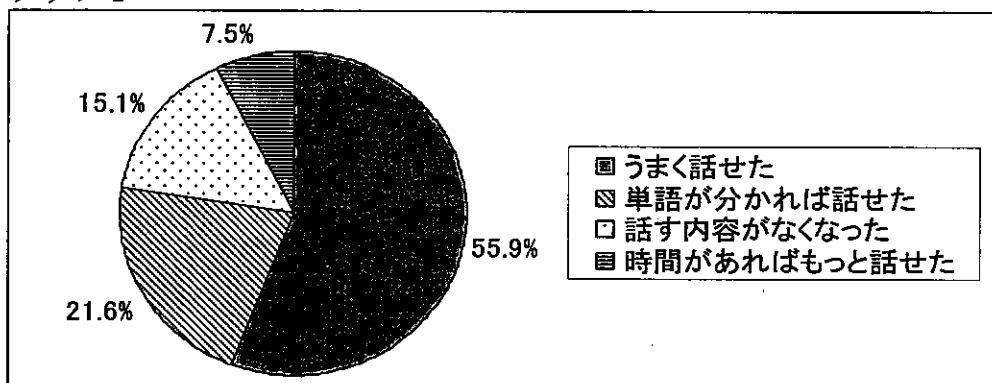
#### (5) 自己紹介テストの結果

- ア 67.0%
- イ 5.5文
- ウ 19.8%
- エ 2.2文

#### (6) 意識調査の結果

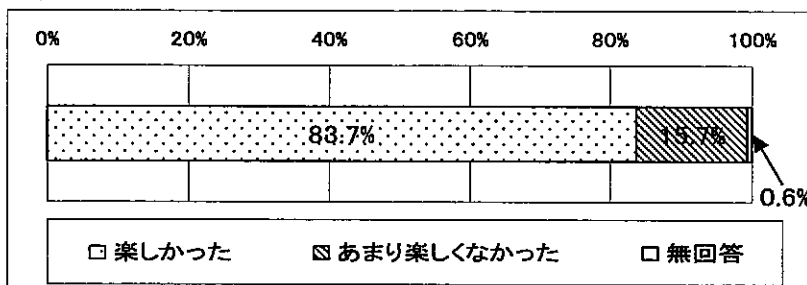
ア 自己紹介テストについての感想

グラフ1



イ 自己紹介テストは楽しかったか

グラフ2



この調査結果から、67%の生徒が規定の4文を言うことはでき、更に英文を付け加えた生徒が多くいたことも分かった。付け加えた文の平均数は約1.5文であった。また、質問紙調査の結果から、その中で「単語が分かれば言うことができた。」と答えている生徒は全体の22%であった。

このことから、「話すこと」の力を伸ばすために、必要な語彙をインプットしていくことに取り組んでいくことにした。

また、「話すことがなくなった」と答えている生徒が15%おり、テーマに沿った会話を、説明し補足する文を加えながら続けていくことに難しさを感じている生徒がいることも分かった。特定のテーマについて深く考える機会が少なく、自分の考えをまとめて論理的に伝える練習が不足しているためと考えられる。

自己紹介テストの中で内容のつながりのある文を話した生徒は全体の約20%であった。つながりのある文は平均2.2文程度しか話せていない。内容のつながりを意識している生徒が多いとは言えないことが分かった。

これらのことから、「話すこと」の力を伸ばすためには、まず、必要な語彙をインプットさせ、テーマに沿ったつながりのある文を意識させていくことが重要であると考えた。

## 5 研究の内容

### (1) 会話活動“Topic Talking”の開発

第一分科会では、仮説に基づき、生徒が自己表現に必要な英語の語句や表現を増やすための活動の開発に取り組んだ。

「話すこと」による発信力を高めるためには、コミュニケーションが行われているとき、問われたことに対し、瞬間的に判断し、答えられるように訓練をする必要がある。そこで、いくつかの話題(topic)について、自分の考えや意見を表現する会話活動の機会をつくり、その話題に関しての自分の考えをまとめ、必要な語句を身に付けさせるための活動として“Topic Talking”を考えた。

この活動を続けることで、「英語を話したいが、話す内容やその英語表現が思いつかない。」という課題を解決していくと同時に、テーマを決めて、同じテーマで何度も会話活動を繰り返し行っていくことで、「つながりのある話を続けることができない。」という課題を解決する。

第1学年では、主に自分や身の回りのことを取り上げ、自分のことに対する意識を高めさせる。同時に、教師から意図的に話す内容や表現・語句をインプットし、話題に沿った発話ができるようにしていく。

第2学年からは、社会問題について考えさせる内容に変えていき、自分の意見を述べさせるよう指導する。追加する英文については、論理的な発話ができるように「誰が、何を、いつ、どこで、なぜ、どうやって(5W1H)」において不足している情報を補足させるよう指導し意識付けをさせる。

ア 会話活動 “Topic Talking”の活動内容

- ・授業ごとに行う。
- ・ペアの相手を毎回変える。
- ・1か月（週3時間、毎時5分間で1か月に計9回程度）、同じ話題(topic)についての会話活動にする。
- ・週に一度の頻度で、生徒は終了後に「これが言いたかった。」という一文を追加する。英文で書けない場合は、辞書を使ったり、ペアやグループで相談したりして英文を追加する。追加された英文を教師が添削する。

イ 会話活動 “Topic Talking”の取組方

- (ア) ペアになり、一方が“Topic Talking”カードに指定されている英語の質問をする。
- (イ) カードに指定されている英文を使いながら、相手が英語で答える。この時に、1文だけでなく、つながりのある3文以上の英語で答えるように指導する。
- (ウ) それぞれが、会話が終了した後、「追加したい文」の欄に英文を追加する（週に一度の頻度で、ペアで英文が正しいかどうか話し合い、訂正した上で提出する）。
- (エ) 毎回ペアを変えながら、追加された英文を加えて会話活動を続けていく。
- (オ) 1か月活動が続けた後、Topic Talking Review（振り返り用紙）に topic に対する英文のまとめを記入する。

ウ “Topic Talking”カードの例<第1学年>

出身地について

<b>Topic Talking!</b> 授業のはじめにペアで会話しよう！①		質問に答え、更に2～3文追加しよう。				
1. A: Hello. How are you?		CLASS    NO    NAME				
B: Fine, thank you. And you?						
A: I'm fine, too. Thank you.						
2. A: Are you from Tokyo?						
B: Yes, I am. / No, I'm not.						
I am from (1        ).		★追加したい文・辞書で調べたり、友達と相談したりして考えよう！				
It's a (2*        ) city.        *nice, big, small, beautiful...						
My home is near (3*        ). *my school, the library, a shop...						
★(4 追加する英文)						
A: (*I see. Really? Good. ....        ).						
B: Are you from Tokyo?						
A: ...						
	ペア①	ペア②	ペア③	2回目ペア①	2回目ペア②	2回目ペア③
1				自己評価	自己評価	自己評価
2				1 暗記	1 暗記	1 暗記
3				A/ B/ C	A/ B/ C	A/ B/ C
4				2 相づち	2 相づち	2 相づち
				A/ B/ C	A/ B/ C	A/ B/ C
				3 プラスの文	3 プラスの文	3 プラスの文
				A/ B/ C	A/ B/ C	A/ B/ C



その他の topic

<第1学年>

- ①スポーツ A: Do you like sports?
- ②音楽 A: What kind of music do you like?
- ③家族 A: Do you have any brothers or sisters?
- ④友達 A: Tell me about your friends.
- ⑤趣味 A: What's your hobby?
- ⑥日常生活 A: What do you do in your free time?
- ⑦特技 A: Can you ski?

<第2学年>

- ①昨日のこと A: Did you study yesterday?
- ②放課後のこと A: Were you busy after school yesterday?
- ③夏の予定 A: What will you do during the summer vacation?
- ④教科について A: Do you think science is interesting? What subject do you like?
- ⑤将来のこと A: What do you want to be in the future?
- ⑥ディベート1 A: Which is more useful, a cell phone or a computer?
- ⑦一番難しい教科 A: What is the most difficult subject for you?

<第3学年>

- ①ディベート2 A: Which do you like better, comic books or novels?
- ②行ったことのある場所  
A: Have you ever been to China?
- ③行きたい場所 A: Tell me the place you want to visit.
- ④著作について A: Do you know any novels written by (Shakespeare)?
- ⑤節電について A: Tell me your idea to save energy.
- ⑥歴史上の人物など(キング牧師)について  
A: Do you know anything about (Martin Luther King Jr.)?
- ⑦学びたい言葉 A: What language do you want to learn?

6 検証授業

第1学年で次に示す検証授業を行った。

- (1) 使用教科書 Columbus 21 English Course 1 (光村図書)

単元名 Unit 6 A Dream Player

- (2) 単元の指導目標

- ・ 三人称単数現在の形を理解し、友達や家族など身近な人について説明したり尋ねたりすることができる。
- ・ 三人称単数現在の形を使用し、友達や家族などを紹介する文を書くことができる。
- ・ 本文の大まかな内容や登場人物の考えや心情を理解することができる。

- (3) 単元の評価規準基準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
言語活動に積極的に取り組んでいる。	三人称単数現在を利用した表現ができる。	本文の大まかな内容を理解している。	三人称単数現在を使った文の構造を理解している。

(4) 指導観

ア 単元観：学習の初期段階では、自分と相手との関係（一人称と二人称）を軸としたコミュニケーション活動が中心であった。情報量が増え、その内容が詳細になってくると、友達や家族、身の回りのものなど（三人称）について説明したり、尋ねたりする必要性が自然に発生してくる。この三人称の概念を理解し、活用できることで、コミュニケーション能力を伸ばすことができる。本単元では、三人称単数現在の導入・定着を図る。

イ 教材観：教科書やワークシートなどを利用し、三人称単数現在を使った表現の文構造を理解させる。また、友達や家族など、身の回りの人々を紹介する活動を通してその定着を図る。さらに、紹介の際には内容の「つながり」を意識することに重点を置き、自然なコミュニケーションへと発展していけるようにする。

(5) 単元の指導計画と評価計画

	学習活動・学習内容	評価規準
第1時	・三人称単数現在の表現の導入	ア
第2時 (本時)	・三人称単数現在の表現を使った、友人や家族など身の回りの人々の紹介	ア・イ
第3時	・三人称単数現在の疑問文とその答え方の導入と練習	ア
第4時	・三人称単数現在の否定文の導入と練習	ア
第5時	・三人称単数現在のまとめ・小テスト ・本文の内容理解	ウ・エ
第6時	・本文の内容理解	ウ

(6) 指導に当たって



- ・授業開始時、5分程度でTopic Talking 活動を行う。その際には、1文のみの対応ではなく、3文以上で内容につながるのある文を使い、自然な会話ができるようワークシートを準備する。
- ・三人称単数現在の導入・練習では、生徒の興味を引くピクチャーカードなどを準備する。
- ・グループワークやペアワークを適宜取り入れ、友人と協力しながら活動を行う。
- ・友人や家族など身の回りの人々を紹介する活動では、単純に事実を羅列するのではなく、内容のつながりを意識して説明できるように指導する。

(7) 本時（全6時間中の第2時間目）

ア 本時のねらい

- ・Topic Talking 活動を通じて、コミュニケーション活動への意欲を高める。質問に対して、カードに指定されている英文を使い返答をする際には、1文でなく、3文以上で内容のつながりのある文が言えるようにする。
- ・三人称単数現在の形を活用し、第三者を、相手に紹介する活動を行う。その際には「つながりのある」表現を意識することができるようにする。
- ・コミュニケーション活動に積極的に参加し、自然な会話の中で友人に自分の意思を伝えたり、相手の伝えたいことを理解しようとしたりする。

イ 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価基準
10分	<p>【ウォーミング・アップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・ Topic Talking 活動を行う。</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気に挨拶する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数人を指名し英問英答を行う。</li> <li>・ペアを指定し、3分程度で行う。</li> <li>・内容のつながりを意識して会話させる。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音練習をした上で開始する。</li> </ul>	ア
7分	<p>【展開1】</p> <p>既習文法の復習① Quiz “Who is this?” →教師から与えられたヒントから答えを推測する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性・女性など5人程度について、三単現の形を利用して出題する。</li> <li>・ピクチャーカードを利用する。</li> <li>・多くの生徒を指名し、発話の機会を与える。</li> </ul>	
5分	<p>【展開2】</p> <p>既習文法の復習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配布し、三単現の文構造について確認する。</li> <li>・三単現の動詞の活用を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板を用いて、文構造についての説明をする。</li> <li>・三単現の活用形の確認の際は、フラッシュカードを提示する。</li> </ul>	
20分	<p>【展開3】</p> <p>コミュニケーション活動（インタビューゲーム）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 1人につき1枚のカード（歌手や著名人などの写真や絵が記載されている）を配布する。</li> <li>② 配布された絵の人物について、ワークシートを基に、説明文を作る。</li> <li>③ 制限時間（約5分）の中で、インタビューを楽しみながら友人や教師に、自分のもっているカードの人物について説明する。</li> <li>④ 紹介が終わる度に、ワークシートに相手のサインをもらう。サインの数によってポイントを与える。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員に配布が終わるまでカードは裏にしたまま見ないように指示する。</li> <li>・絵の人物については自分と自由に関連付けるよう指示する。</li> <li>・ワークシートには、規定の3文（基本情報）を考え、人物を更に説明する2文も付け加えるように指示する。</li> <li>・BGMを流し雰囲気のを和らげる。</li> <li>・活動時間は状況に応じて対応する。</li> <li>・うまく活動に参加できない生徒への支援を行う。</li> </ul> 	ア
8分	<p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介文を発表する。</li> <li>・紹介文をまとめ、ワークシートに記入する。</li> <li>・本時の自己評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5人程度を指名する。</li> <li>・ワークシートへの取組を確認する。</li> <li>・家庭学習として、ワークシートに記載されている2名について5文以上の紹介文を作成するよう指示する。</li> </ul>	イ

## (8) 授業を終えて

### Topic Talking 活動の成果

最初は戸惑っていた生徒にとっても、ウォーミングアップとして継続していくことで、この活動は着実に定着してきた。当初は、同じトピックを繰り返すことになるので、生徒にとって次第に退屈なものになるのではないかという危惧もあった。しかし、生徒たちの様子はより積極的なものとなってきている。同じトピックについて何度も繰り返すことで、重要表現が自然とインプットされ、自然な発話による英語での会話をすることで「自信」へとつながっていったように思われる。最初はプリントを見ながらであったが、相手の顔を見ながら相づちを打つなどタイミングよく自然に振る舞えるようになってきた。

この活動の最後には、活動で用いた表現を使って、毎回3名ずつ順番に指名し、生徒との会話活動を行った。生徒は意欲的に教師との会話に取り組んだ。周囲の生徒も、友人が話す内容に興味をもって耳を傾けるようになり、その後の授業における会話活動を活性化させるものとなった。

また、コミュニケーション活動として、他者を紹介する活動を行ったが、生徒にとって親しみのある人物のピクチャーカードを多数準備したことで、生徒一人一人の意欲を喚起し、コミュニケーション活動を非常に盛り上げることができた。指定した表現の他にも、内容的につながりのある表現を使った発話が自発的に行われていた。また、ゲーム形式にしたことで、同性はもちろん異性との会話も自然に行うことができ、明るく、はつらつとした雰囲気を作り出すことができた。この教室の雰囲気が、自然な発話を促すきっかけとなった。

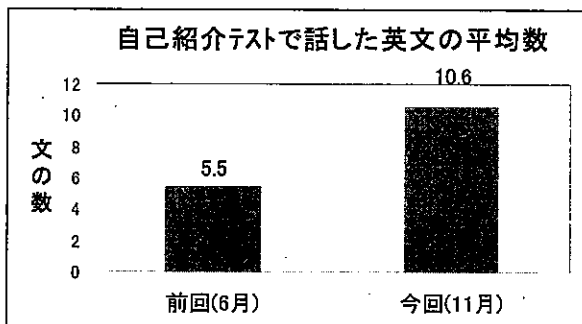
## 7 事後アンケートのまとめと分析

Topic Talking を授業の帯活動として活用する前と後での生徒の発話量と内容につながりのある自己表現の文数の変容を見るために、6月に行った自己紹介テストと同様に11月に再度自己紹介テストを実施した。また、生徒の個々の意識の変容を見るために、事後アンケートを実施した。

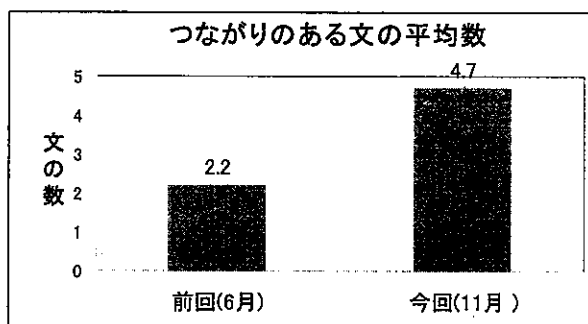
### (1) 生徒の発話量と内容につながりのある自己表現の文数の変容

「テストで話した英文の平均数」は5.5文から10.6文となり、「つながりのある文の平均数」は2.2文から4.7文に増えた。内容は Topic Talking の活動で取り入れた家族、趣味、スポーツに関する内容がほとんどを占めていた。また、9割以上の生徒がつながりのある英文を話すことができていた。このことから、語句や表現のインプットが行われ、それらの表現が定着し生徒のスムーズな発話につながったものと考えられる。

グラフ 3



グラフ 4



(実施対象生徒： 部員所属校 3校 中学校 1年生 486名)

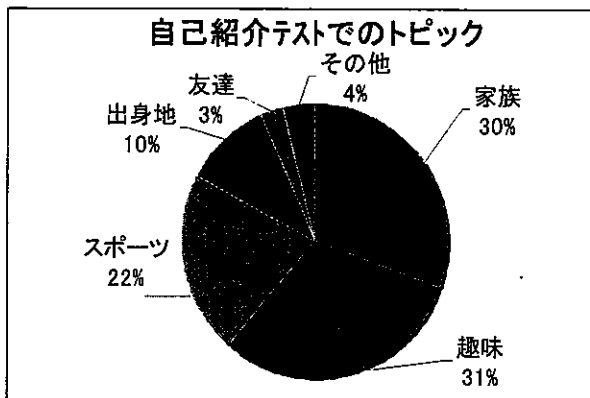
(2) 生徒の意識の変容

「うまく話せた。」、「時間切れだったが、時間があればもっと話せた。」の数値が前回より上がったこと、「話す内容がなくなった。」の数値が前回より下がったことから、Topic Talking の活動を通して生徒が話す内容を増やし、話すことに自信をもてたことが分かる。感想として「楽しかった。」と答えた生徒が全体的に多かったことは、前回よりも話す内容が難しく、発話量が増えているにもかかわらず、生徒が話すことに慣れ、相手にもっと伝えたいという意欲の高まりを示していると考えられる。

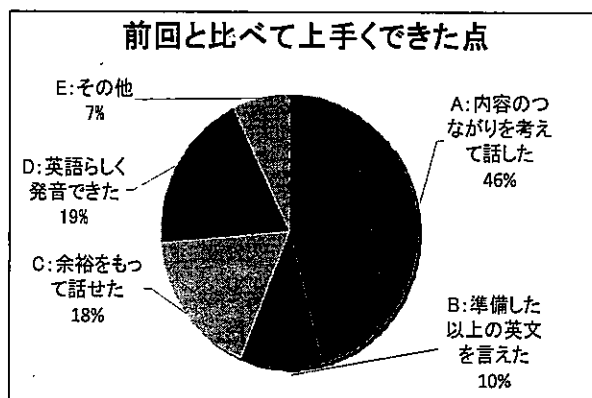
「言葉が分かれば話せた。」の数値が前回より上がったことについては、話す内容が難しくなったことで、もっと自分の考えを話したいが、その内容を英語で表現できないということを表している。Topic Talking 活動を継続させインプットを増やすことで、生徒の表現の幅を広げることができると考える。

11月の事後アンケートでは「前回と比べてうまくできた点(複数回答可)」についても調査を行った。その中で生徒の回答が一番多かったものが「内容のつながりを考えて話した。」であり、次いで「英語らしく発音できた。」、「余裕をもって話せた。」であった。このことから、身近な内容ではあるがTopic Talking の活動が生徒の発話量を増やすだけでなく、内容やつながりを考えながら話すという意識の向上にもつながったと考える。

グラフ 5



グラフ 6



(3) 生徒の作品例

**Topic Talking!** 授業のはじめにペアで会話しよう! ①  
質問に答え、更に2~3文追加しよう。CLASS NO NAME

1. A: Hello. How are you?  
B: Fine, thank you. And you?  
A: I'm fine, too. Thank you.

2. A: Are you from Tokyo?  
B: Yes, I am. / No, I'm not.  
I am from (1: 東京) city.  
It's a (2: nice) city. \*nice, big, small, beautiful...  
My home is near (3: the station). \*my school, the library, the station...  
★(4追加する英文)

A: (I see. Really? Good... )  
B: Are you from Tokyo?  
A: ...

友達との会話の内容をメモしよう!  
ペア① ペア② ペア③

1	Tokyo	Tanashi	Saitama
2	nice	nice	nice
3	diversion	park	shop
4	川が泳げる	静かな場所	静かな場所
	公園が近い	静かな場所	静かな場所
	静かな場所	静かな場所	静かな場所

★追加したい文・辞書で調べたり、友達と相談したりして考えよう!  
<日本語> <英語>

ここは 富士山を見ることが出来ます	You can see Mt Fuji.
ここはとても大きいです。	It's very big.
私は、この美しい町が好きです。	I like this beautiful city.

Class No. Name

(振り返りシートの場合)

**TOPIC TALKING REVIEW**

質問 : Do you have any brothers or sisters? テーマ : 身近な人

① Yes, I have two brothers.  
② Their names are Masahiko and Yoshihiko.  
③ Masa likes music very much.  
④ He plays the violin.  
⑤ He sometimes plays the piano.  
⑥ He has a good guitar.  
⑦ But he doesn't play the guitar.

三単現や頻度を表す副詞、否定文など、様々な文を使っている。

返却時に訂正して、説明する。同様の間違いが多いときにはクラス全体にフィードバックする。

**TOPIC TALKING REVIEW**

質問 : Do you have any brothers or sisters? テーマ : 身近な人

① Yes, I do.  
② I have a brather.  
③ His name is Akihiro.  
④ He's kind to me.  
⑤ He practice swimming every Friday.  
⑥ He likes swimming.  
⑦ But he doesn't play soccer.  
⑧ He watches soccer game.

## 8 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

#### ア 表現や語句の定着

第一分科会で開発した会話活動の Topic Talking は、定期的に新たな語句や表現を追加しながら、会話を繰り返し行う活動である。何度も同じ表現を話したり、聞いたりすることで、表現や語句のインプットが行われ、それらの表現が定着していく様子が見られた。

教師が意図的に準備した topic (話題) は、日常生活でも大いに役立つ内容であり、新しい表現や文法事項を学んだときや、異なる状況設定で会話を行うときにも利用できることに気付いた生徒も多く、Topic Talking で学んだ英文を他の場面でも使用していた。

#### イ 内容のつながりに対する意識の向上

topic を限定し、できるだけ内容がそれないように気を付けながら英文を考えさせていくように指導した結果、話の内容を更に詳しく説明したり、補足したりして、つながりのある発話を意識させることが出来た。

topic が変わるごとに Topic Talking Review (振り返り用紙) にまとめを書かせたが、多くの生徒がより詳しく説明しようとして英文を書いていた。この活動を続けることにより、生徒が論理的に発話を進めていくための方法を身に付けていくことが期待できる。

#### ウ 話すことに対する意欲の高まり

2度目の自己紹介テストの後にとったアンケートでは、多くの生徒が「話すことが楽しい。」と感じ、その後の会話活動にも意欲的に取り組んでいる。学んだ topic について、いくつかの英文を言えるようになったことが、様々な場面での会話を行う際の自信につながっていることが分かる。

### (2) 今後の課題

#### ア インプットする表現や語句の精選

Topic Talking では生徒の学習の段階に合わせて、質問の文や返事の最初の2～4文は、教師が意図的に選択したものをまずインプットさせることになっている。ここで選ぶ英文が、学習したばかりの構文であったり、間違いやすい文法事項が含まれるものであると、より効果的である。しかし、topic が変わるごとにインプットする英文の幅が広がらないと、期待される効果が低くなるのではないかと予想される。覚える英文を精選し、学ばせることで最大の効果が得られると考える。定期的に追加する英文についても同様である。

#### イ topic の精選と「発信力」の育成

Topic Talking で扱う topic は将来、自分の考えを発信するときに役立つものである。身近な話題から、社会問題や世界の出来事にも目を向けさせ、それらに対する考えを普段からもたせ、論理的に伝えようとする姿勢を身に付けさせることが大切である。伝える価値のある内容を、生徒同士の会話活動の中で考えさせることが発信力の育成につながると考える。

## V 第二分科会の研究

### 研究主題

「内容のつながりがある文を正しく書かせる指導の工夫」

#### 1 主題設定の理由

第二分科会では、以下の3点のねらいから主に「書くこと」を通して発信力を高めることに主眼を置いた。

- (1) 前年度までに学んだことを、書くことを通して繰り返し指導し、定着を図る。
- (2) 自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりに注意させる。
- (3) 内容のつながりがある文を正しく書くことができていない生徒の現状を改善する。

中学校学習指導要領改訂における外国語科の改訂の背景の一つとして、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分に身に付いていないことが挙げられる。平成24年度から実施される中学校学習指導要領の下では、外国語科の標準授業時数が年間140時間になり、3年間の時数は420時間になる。中学校の教科等の中で、外国語科は最も時数の多い教科になる。そのことにより、指導事項を定着させ、その活用を図ることができる。

第二分科会では、第2学年と第3学年の生徒に対して、「書くこと」を通して発信力を高めることに主眼を置いた。新しい中学校学習指導要領の内容として、「書くこと」では、「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと」と「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」が記されている。都立高等学校の入学選抜の英語検査問題においても、三つの英語の文による作文が出題されており、文と文のつながりに注意して、自分の考えや気持ちなどが伝わるように、正確に書くことが求められている。そこで、第二分科会の主題を、「内容のつながりがある文を正しく書かせる指導の工夫」と設定した。

#### 2 研究の視点

第二分科会では、以下のような視点で研究を進めていくこととした。

- (1) 文法や単語などで間違いが多かった内容を扱い、既習事項の定着を図ることができるようにする。
- (2) 生徒の書いた良い例を紹介し、文と文のつながりを意識させる。
- (3) テーマを与えて、つながりがある文を正しく書かせる。

#### 3 研究仮説

継続的にフィードバックを行うことで、内容のつながりがある文を正しく書く力を高めることができる。



## 4 研究の方法

### (1) 研究の流れ

#### ア 調査研究

第二分科会では、研究員の所属校を対象に、英作文能力を知るための調査を実施した。

(ア) 対象生徒 391名（研究員所属校2、3年生徒）

(イ) 実施時期 平成23年5月と11月

(ウ) 調査内容

① 「Self Introduction」の実施。自己紹介文を5分間で出来るだけ多く書く。

② 「自己表現に関するアンケート」の実施。自己表現に関する意識調査を実施した。

#### イ 基礎研究

平成24年度から実施される学習指導要領の目標や内容を分析し、更に研究員の所属校生徒の実態を鑑みて、「書く力」を高めることができる指導方法を策定した。

#### ウ 授業での実践

調査研究及び基礎研究を踏まえ、内容のつながりのある文を正しく書かせることを目的としたワークシートを開発した。研究員の所属校4校の授業にて、ワークシートを使用して「書くこと」に関する指導を週一回、10分程度、計8回実施した。

#### エ 研究成果のまとめ

ワークシートを使用した指導を継続的に行い、5月に実施した自己紹介の結果と11月の結果を考察し、研究の成果をまとめた。

### (2) 「Self Introduction」の結果

研究員の所属校4校の2、3年の生徒を対象に自己紹介を書かせる調査を実施し、その結果の分析を行った。

生徒が書いた全ての英文の数、その中で正確な英文の数及び内容につながりのある文の数を集計し、分類を行った。

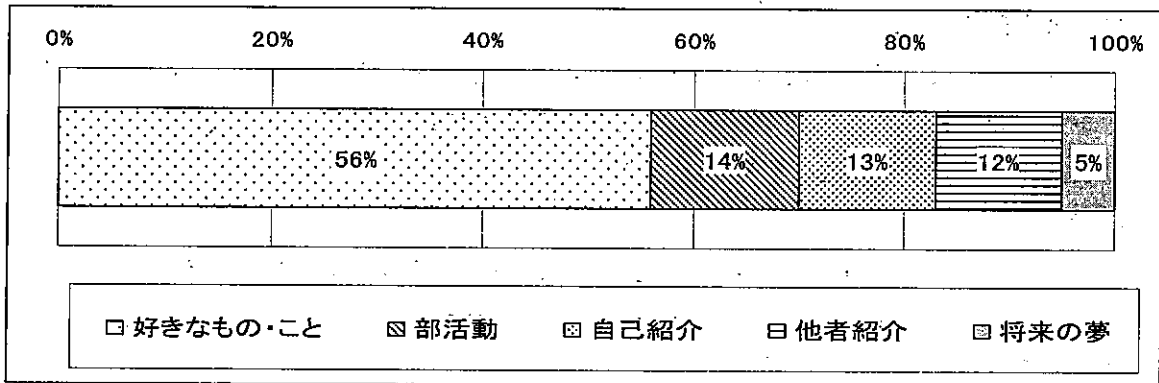
生徒の書いた文の平均は6.5文で、正確な文の平均は3.9文であった。内容につながりのある文を書いていた生徒は全体の約28%であり、ほとんどが2～3文の内容のつながりであった。そして、内容のつながりのある文のテーマを分類すると「将来の夢」、「好きなもの・こと」、「部活動」、「他者紹介」、「自己紹介」の五つになった。

### (3) 「自己表現に関するアンケート」の結果

意識調査では、「2年生は4文、3年生は5文程度の英語を使って自己表現をすることができる。」という質問に対して約68%の生徒が、「2年生は3文、3年生は4文程度の英語を使って自己表現の文を書くことができる。」という質問に対して約70%の生徒が、「そう思う」又は「どちらかというと思う」と回答した。また、「英語を話したり書いたりするときに、内容のつながりを意識している。」については約73%、「英語を話したり書いたりするときに、文法や単語を正確に使うことができる。」については約57%の生徒が「そう思う」又は「どちらかというと思う」と回答した。しかし、自己紹介を書かせる調査の結果と比較をすると、内容につながりのある分は全体の約28%で、多くの生徒は、内容のつながりのある文を意識しているが、実際には十分に書けていないことが分かった。

ア 「Self Introduction」(5月)におけるつながりのある文の内容の内訳

グラフ1



イ 「自己表現に関するアンケート」の結果(5月)

<質問項目>

質問1 (話すこと)

2年生は4文、3年生は5文程度の英語を使って自己表現をすることができる。

質問2 (書くこと)

2年生は3文、3年生は4文程度の英語を使って自己表現をするための文を書くことができる。

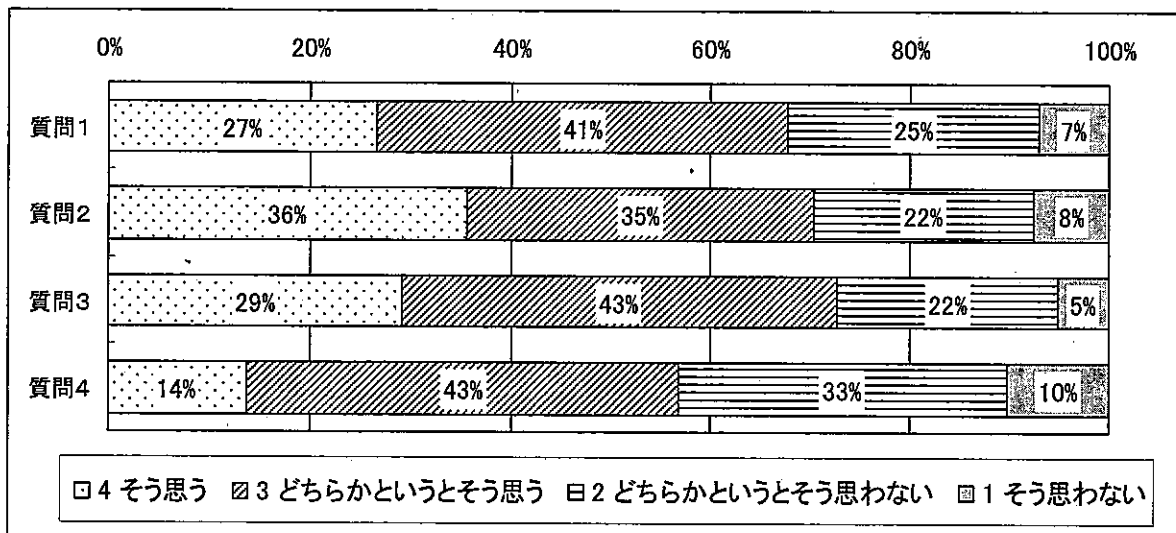
質問3 (話すこと・書くこと)

英語を話したり書いたりするときに、内容のつながりを意識している。

質問4 (話すこと・書くこと)

英語を話したり書いたりするときに、文法や単語を正確に使うことができる。

グラフ2



## 5 研究の内容

### (1) ワークシートの開発

「Self Introduction」の結果から、生徒が「内容のつながりのある文」を書くためには、英文をどのように書けばよいのかを学ばせる具体的な例を提示することが必要であり、「正しく書かせる」ためには、生徒が間違いやすい文法事項や単語について気付かせることが必要であると考えた。

上記の2点を踏まえ、内容のつながりのある例文を提示するとともに、間違いやすい文法事項や単語を学習できるワークシートの開発を行った。

#### ア ワークシート「英作文 Training Sheet」の使い方

(ア) 例文に教師が意図的に文法事項や単語の誤りを入れ、生徒はその誤りを探し、訂正を行う。その際4、5人のグループで協力して行う(ワークシート Step1)。

(イ) 教師が正答を示し、間違いやすい文法事項や単語を生徒に指導する。

(ウ) 教師が内容のつながりのある文のポイントを示す。

(エ) 生徒が例文を参考に、テーマに沿った英作文を完成させる(ワークシート Step2)。

(オ) ワークシートを提出させ、教師が添削を行う。後日、生徒へ返却し、自分の書いた英文の良い点や間違いを確認する。

(カ) 生徒は推こうした英作文を、ワークシート裏面に書き、再度教師へ提出する(ワークシート Step3~5)。

\* 一週間ごとに違うテーマで「英作文 Training Sheet」を活用する。

#### イ ワークシートの特徴

- ・共同学習を取り入れることで、文法事項や単語に関する知識の少ない生徒の援助を行うことができる。
- ・文法事項や単語に誤りのある英文の間違いを訂正する活動によって、正しい文法事項や単語の用法を身に付けることができる。
- ・例文の単語を入れ替えることなど、例文を参考にして、短時間で、内容のつながりのある文を書くことができる。
- ・自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」を養うために、Step1 では参考とする例文を4文提示し、Step2 では生徒が書く英文を5文にすることで、5文目には生徒が内容のつながりを考えて英文を書くことができるよう工夫した。
- ・ワークシート裏面に3回分の英作文を書くことができるようにしたことで、個々の生徒に応じた指導が可能である。生徒は裏面を活用して、訂正された文を書き直すことができる。また、新たなテーマで書くこともできる。
- ・生徒の書いた良い文をまとめ、提示することで、他の生徒の表現に興味・関心をもち、書くことに対する意欲を高めることができる。

<ワークシート (例) >

## 英作文 Training Sheet

表面

No. 4

テーマ サッカー

**Step 1** 下の文には誤りがあり、間違っている部分に印をつけ、正しい文に直しましょう!

I'm ~~join~~ in the soccer club.  
I'm a member of ~

I practice soccer with my teammates  
practice  
after school.

We will going to have a big game next week.

We'll try my best.  
our

-MEMO-

**Step 2** 上記のテーマについて、つながりのある文を書いてみよう。

1文目 I'm in the basketball club.

2文目 I practice basketball with my teammates.

3文目 after school.

4文目 We have a morning practice every day.

5文目 We keep trying to play basketball.

裏面

**Step 3**

1文目 \_\_\_\_\_

2文目 \_\_\_\_\_

3文目 \_\_\_\_\_

4文目 \_\_\_\_\_

5文目 \_\_\_\_\_

**Step 4**

1文目 \_\_\_\_\_

2文目 \_\_\_\_\_

3文目 \_\_\_\_\_

4文目 \_\_\_\_\_

5文目 \_\_\_\_\_

**Step 5**

1文目 \_\_\_\_\_

2文目 \_\_\_\_\_

3文目 \_\_\_\_\_

4文目 \_\_\_\_\_

5文目 \_\_\_\_\_

<生徒の作った良い文 (例) >

### 部活動についての文

「文と文とのつながりを意識し、正しく書く」ということを目標に、部活動について英語で書きました。参考になる上手な英作文を紹介します。

I'm a member of the baseball club.  
I practice baseball every day.  
It is very fun.  
I like baseball very much.  
I want to play baseball at Tokyo Dome in the future.

I'm in the track and field club.  
I practice track and field four days a week.  
Track and field is very hard, but I like it.  
I'll have a race next month.  
It will be very exciting.

I'm a member of the swimming team.  
I practice swimming on Tuesdays, Wednesdays and Fridays.  
Practicing swimming is very hard, for example, I have to swim 3000 meters in one hour.  
I like swimming, so I would like to swim in high school too.

I am a member of the art club.  
It is a lot of fun for me to draw pictures.  
I draw people, birds, flowers and so on.  
I want to be able to draw pictures well.  
That's why I practice drawing pictures now.

生徒たちの良い文をいくつか選び、1枚のプリントにまとめた。プリントは、生徒に配布したり教室に掲示したりして、アイデアを共有できるようにした。

## 6 検証授業

第3学年で次に示す検証授業を行った。

(1) 使用教科書 NEW CROWN ENGLISH SERIES 3

単元 LESSON 5 "Places to Go, Things to Do"

(2) 単元の指導目標

ア ペア活動やライティング活動に積極的に活動に参加する。

イ 現在分詞・過去分詞の形容詞的用法、接触節による後置修飾を含む文の構造を理解し、正しく用いて話すことができる。

ウ 本文の内容を理解する。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
活動に積極的に参加しようとしている。	現在分詞・過去分詞の形容詞的用法、接触節による後置修飾を使って表現することができる。	本文の内容を理解している。	現在分詞・過去分詞の形容詞的用法、接触節による後置修飾を使った文の構造を理解している。

(4) 指導観

ア 単元観

この単元では、モンゴル、ギアナ高地、韓国の文化や生活について、紹介している。これらを例に挙げながら、外国の文化や生活についての興味・関心を高められるようにする。また、直接的な説明は極力少なめにし、英文を読んだり聞いたりすることを通して、現在分詞・過去分詞の形容詞的用法、接触節による後置修飾の使い方を理解できるようにする。

イ 教材観

教科書の内容理解に関しては、ワークシートを用いる。また、異文化理解を深めるためにインターネット等で入手した資料を、電子黒板を用いて提示する。

(5) 年間指導計画における位置付け

NEW CROWN 3の内容は8単元あり、そのうち外国の文化に関する単元が五つある。LESSON 5はモンゴル、ギアナ高地、韓国と三つの国や地域を取り上げている。この単元は、それぞれ別の人物が自分の行ってみたい国について語る場面設定となっており、自己表現に直接つながる活動に生かせる内容である。

(6) 単元の指導計画（8時間扱い）と評価計画

	学習活動・学習内容	評価規準
第1時	現在分詞の形容詞的用法（前置修飾・後置修飾）導入、練習	ア
第2時	Pre-Activity、①内容理解	ウ
第3時	過去分詞の形容詞的用法（前置修飾・後置修飾）導入、練習	ア
第4時	②内容理解	ウ
第5時	接触節を用いた後置修飾導入、練習	ア
第6時（本時）	③内容理解	ウ
第7時	単元のまとめ 単語・音読	エ
第8時	スピーチ	イ

(7) 本時

ア 本時のねらい

- ①接触節を用いた後置修飾を含む文の内容を理解するとともに、聞き取ったり、話したりすることができるようにする。
- ②本文の内容を理解する。

イ 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・配慮事項
10分	<p>T: Hello, everyone. S: Hello, ○○.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>英作文 Training Sheet</b>                      [Step 1]問題に取り組む。                      答え合わせをする。                      [Step 2]内容を考え、メモを取る。                      テーマに沿った英作文を書く。                      文法事項や単語のスペルを点検する (ペア活動)。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ワークシート①を配る。 *報告書 p.18 参照</p> </div>
3分	<p>教科書開本                      リピート1回・Quick Reading 1回                      Q&amp;A で内容を確認する。                      教科書閉本</p>	
9分	<p>オーラルイントロダクションを聴く。                      CDを聴く (2回)。                      質問の答えを考える。</p>	<p>電子黒板を利用し、視覚教材を使う。                      最後に本文に関する質問を与え、リスニングへつなげる。</p>
5分	<p>読み リピート                      意味確認 (日本語→英語)                      フラッシュカードで見て練習 (*全体、個人、全体)</p>	<p>カードを見せながら発音させる。                      フラッシュで見せる。                      カードを貼る。</p>
8分	<p>教科書開本                      リピート2回                      教科書閉本                      Q &amp; Aを数問行う。                      教科書開本                      個人読み1分・ペア読み1分                      Quick Reading (*20秒以内で読む。)</p>	<p>範読                      発音に関する注意事項を確認しながら行う。特に“-s”“-ed”の音に注意させる。</p>
4分	<p>ノートを開く                      ノートの本文にアンダーラインを引く。                      ①ポイント文 *板書計画参照                      ②熟語等</p>	<p>ポイント文は板書する。                      口頭で伝える。</p>
3分	<p>CHECK IT                      ・Listening (教科書書き込み)                      ・Speaking (ヒントを基に文を言う)                      ・Writing (ワークシート穴埋め)</p>	<p>CDを聴かせる。</p>
4分	<p>T-F                      文を読んで T-F を選ぶ。                      Q&amp;A                      質問を聞いて答えを書く (ノート)。</p>	<p>☆評価規準ウ</p>

4分	文法事項のまとめ 宿題及び次の授業内容を確認する。 宿題① 5文の英作文 接触節の形を必ず含む。 ②本文の読み ③単語練習 T: See you, everyone. S: See you, ○○.	ワークシートを配る。 * 報告書 p.21 参照
----	---	-----------------------------

\* 参考資料

○ 文法のまとめ

問 ( ) の語句を使って、food や box を説明する文を作ってみよう。

- ① This is the food. (I like the best)
- ② Which is the box? (you made yesterday)

< TRUE-FALSE >

- (1) Mina, Kumi's friend, lives in Japan. ( )
- (2) Mina writes to Kumi about schools, movies and music in Korea. ( )
- (3) Kumi has been to Korea. ( )

< CHECK IT >

- A The ( ) I want to ( ) is Sydney.
- B The ( ) I want to ( ) is the Lake District.
- C The ( ) I ( ) to visit is Mongolia.

○ 宿題 5文の英作文

Class ( ) No ( ) Name ( )	
LESSON ( ) SECTION ( )	Date /
1	
2	
3	
4	
5	

○ 板書計画

Friday,	October	7th	Cloudy	LESSON	5③p.46	fall	warm
CHCKE IT		T-F		POINT		autumn	cool
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">文法のまとめ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">Q&amp;A</div>				The place [I want to visit] is Korea. There are <u>many things</u> [I want to do].			

## 7 研究の考察と事後アンケートのまとめ

### (1) 意識調査における変容

ワークシート「英作文 Training Sheet」を8回実施した後の11月に、生徒の意識の変容を見るために、ワークシート実施前に行った自己表現に関する意識調査を再び同じ質問項目で実施した。

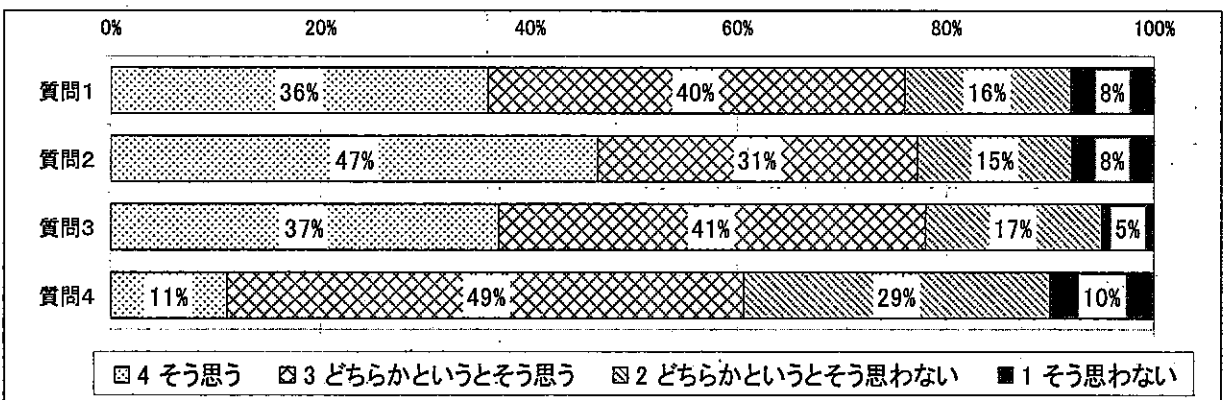
再度行った意識調査では、「思う」及び「どちらかというと思う」と肯定的な回答をした生徒が「2年生は4文、3年生は5文程度の英語を使って自己表現をすることができる。」では約76%と6ポイント上昇し、「2年生は3文、3年生は4文程度の英語を使って自己表現の文を書くことができる。」では約78%と8ポイント上昇した。また、「英語を話したり書いたりするときに、内容のつながりを意識している。」では78%で5ポイント上昇し、「英語を話したり書いたりするときに、文法事項や単語を正確に使うことができる。」では約60%と3ポイント上昇した。

ワークシート「英作文 Training Sheet」を実施した後のアンケート調査の結果では、全ての項目において数値が上昇しており、生徒は英作文を書くことに対してより前向きに考えるようになっていくことが分かった。

#### <「自己表現に関するアンケート」の結果(11月)>

質問1 (話すこと)	2年生は4文、3年生は5文程度の英語を使って自己表現をすることができる。
質問2 (書くこと)	2年生は3文、3年生は4文程度の英語を使って自己表現の文を書くことができる。
質問3 (話すこと・書くこと)	英語を話したり書いたりするときに、内容のつながりを意識している。
質問4 (話すこと・書くこと)	英語を話したり書いたりするときに、文法や単語を正確に使うことができる。

グラフ 3



### (2) 「Self Introduction」の結果の変容

「自己表現に関するアンケート」と同様に2、3年の生徒を対象に自己紹介を書かせると生徒の書いた文の平均は6.5文から8.2文に、正確な文の平均は3.9文から4.8文にそれぞれ上昇した。内容につながるのある文を書いた生徒は、全体の約28%から約55%へと27ポイント上昇した。



## 8 研究の成果と課題

第二分科会では、研究主題を「内容のつながりがある文を正しく書かせる指導の工夫」と設定し、主に「書くこと」に重点を置いた取組として、『英作文 Training Sheet』を開発した。この活動を続けた結果、生徒が書いた内容、分量ともに大きな変容が見られ、「書くこと」に対する意識にも変化が見られた。当初「書くこと」にかなりの抵抗感をもつ生徒もいたが、回を重ねるごとに次に挙げる成果が表れた。

### (1) 研究の成果

#### ア 意欲の向上

- (ア) 具体的な例文があり、書く内容が具体的で取り組みやすかったので、書くことへの抵抗感が小さくなり、つながりのある文を意識して書くようになった。「書けた。」という達成感が「次はもっと内容のある、正しい文が書きたい。」という書こうとする意欲につながった。
- (イ) 各校で共有した良い例を提示したことにより、他の生徒の文にも興味・関心をもつようになり、「良い例をもっと知りたい、良い文を書きたい。」という意欲につながった。
- (ウ) 10分間の帯活動として時間制限を設けたことにより、早く正確に書こうとする意識が高まった。

#### イ 英文を書く力の向上

- (ア) この活動を繰り返し行ううちに、文の組立て方が早くなった。文の書き方が分かることで、正確さ・分量ともに書く力が向上した。特に意欲の向上が書く量の増加につながってきた。

また、2回目の自己紹介を書かせた調査の分析からも、1回目に比べ、内容のつながりのある文をより多くの生徒が書けるようになった。

- (イ) 具体的な例文を使つての間違い探しが、既習の文法事項や単語について確認する機会となり、良い復習となった。また自分の書いた英文を見直すことによつて、単語や文法事項の誤りがあるか、表現として正しいかということについて意識しながら書くようになり、結果として正しい英文を書ける生徒が増えた。

#### ウ 「発信力」の向上

2回目の意識調査では「自分の気持ちが英語で伝えられるようになった。」、「相手に伝えることを意識するようになった。」という回答が多かった。この活動を続けることで、書くことによる「発信力」が高まったと考える。

### (2) 今後の課題

#### ア 学年に合わせた内容とテーマの選択

第二分科会は、2、3年生を対象として検証を行ってきたが、同じワークシートを使用したため、2年生にとっては難しいものもあった。学年ごとに文法事項等を精選してワークシートを作成することによつて、より大きな成果が期待できると考える。

#### イ フィードバックを早くするための方策の構築

「内容のつながりのある文を正しく書く」ために最も有効なのは、生徒が書いた英文を早く添削して返却することである。フィードバックをいかに早く適切に行えるかが今後の課題である。

## VI 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

#### (1) 表現の定着

研究当初に、生徒が行う自己紹介の内容を分析したところ、つながりのある文を言えない、書けないという結果が明らかになったが、「Topic Talking」及び「英作文 Training Sheet」の二つの教材を開発し、それを用いた指導法を工夫することにより、生徒は例文を自分の表現として定着させ、他の活動においてもそれらの表現を使って自分の考えを伝えている姿が見られた。

#### (2) 意欲の向上

上記二つの教材を用いた指導では、生徒は自分の伝えたいことを話したり、書いたりすることを通して、自分の考えを相手に伝えることができる。そのため、意識調査の感想にも「もっと英語で話したい。」、「もっと自分の考えを書きたい。」という内容が多くあった。自分の思っていることを英語で相手に伝えられたという達成感をもたせることにより、英語で自分の考えを発信しようという意欲が高まったと考えられる。

#### (3) 4技能の総合的な育成

「Topic Talking」は、自分の考えを「話すこと」により相手に伝え、相手の考えを「聞くこと」で理解する活動である。「英作文 Training Sheet」は、まとまった量の例文を基に自分の考えを「書くこと」で表現する活動であるが、生徒が書いた良い英文を紹介すると、生徒は一生懸命にそれらを「読むこと」で自分の表現として取り入れようとした。

### 2 今後の課題

#### (1) 単語の不足

本研究を通して、生徒の「話すこと」や「書くこと」における自分の考えを伝えたいという意欲を高めることができた。しかし、例文にない単語を使わなければならなくなると、表現活動が止まってしまう場面もあった。自分の興味や関心のあることについて伝えるためには、授業で学習していない単語を使わなければならないことがあるので、自分で伝えたいこと、気になったことについて辞書を引き、単語や辞書にある例文を調べられるように指導をすることが重要である。

#### (2) 適切なフィードバック

自分の考えや思いを英語で相手に伝えることができるようになることで、生徒たちは社会の出来事に対する自分の意見など、正確に伝えることが難しい内容についても、相手に伝えたいと思うようになっていくと考える。その際には、様々な単語や文法事項などを使った英文で表現をしなければならない。

また、生徒の発信力を高めるためには、生徒が作り出した英文が正しく伝わるものであったかどうかフィードバックをする必要がある。しかし、生徒が英文を作ってから教師がフィードバックをするまでに時間がかかってしまうと、効果は低くなる。

これらのことから、発信する内容を深化させながら、いかにして生徒への適切なフィードバックをしていくかが課題となる。

平成23年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 外 国 語

地区	学 校 名	職名	氏名
文京区	第九中学校	主幹教諭	田中 久美子
墨田区	立花中学校	主幹教諭	佐藤 恵美
荒川区	第三中学校	教 諭	◎赤田 洋一
足立区	湊江中学校	主任教諭	柴野 泰行
三鷹市	三鷹中央学園第四中学校	主任教諭	金 誠一郎
日野市	日野第三中学校	主幹教諭	青柳 玲子
東大和市	第四中学校	主任教諭	仲 圭一
東久留米市	南中学校	主任教諭	○三田村 規子

◎ 世話人      ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課  
指導主事 阿部 大介

平成 23 年度  
教育研究員研究報告書

中学校 外国語

東京都教育委員会印刷物登録

平成 23 年度第 181 号

平成 24 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話番号 (03) 5320-6836

印刷会社 有限会社 シーダー企画